

平成28年度 施策評価表

作成年月日：平成29年10月13日	課・グループ名	産業振興課農政グループ
-------------------	---------	-------------

施策名	④環境と調和した活力ある農村の構築 2-1-④
------------	-------------------------

1. 施策の現状分析及び展開方向

政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	2. 地域ぐるみで支え育てる活力ある産業経済のまちづくり	(1) 地場の交流を通した顔の見える農業・農村環境づくり	④環境と調和した活力ある農村の構築
①施策のねらいと展開方向	●稲わら、麦わらの堆肥化やエネルギー資源等としての有効活用を図ります。また、農業用廃プラスチックなど廃棄物の適正な処理を推進します。 ●農業・農村の有する多面的機能の維持、発揮や地域資源（農地・水路・農道など）の質的向上を図る活動を推進します。 ●防風保安林等の機能維持のため、適正な維持管理を行います。		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	●環境に配慮した循環型農業を推進するため、稲わら、麦わらについては堆肥化などを行っています。 ●景観の保全や風害から農作物を守るため、防風保安林109ha、耕地防風林9haの管理を行っています	●環境への負担を軽減し、消費者に信頼される安全・安心な農作物を生産・供給していく必要があります。 ●住民が快適でゆとりある生活に資するため、地域の農業資源の活用や景観の保全等に取り組む必要があります。 ●防風保安林等の保育のため、間伐や補植等を行う必要があります。	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況

① 成果指標	設定の意図	まちづくりの成果指標名	数値化				
	・防風林の適切な維持管理は、環境や農業経営に密接に関係することから、防風保安林、耕地保安林ともに「面積」を成果指標として設定している。	成果指標 （総合計画・施策評価） A 防風保安林（面積） B 耕地防風林（面積） 代替指標 ※成果指標がない場合	○ 可 能 不可 能 未計 測 指 標 の 設 定	可 能 不可 能			
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。							
② 指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由
		H25	H26	H27	H28	H28	
A 目標	ha	109	109	109(維持)	維持	維持	現状の面積を維持している
A 実績	ha	109	109	109	109	109	
A 達成率	%	100	100	100	100	100	
B 目標	ha	9	9	9(維持)	維持	維持	現状の面積を維持している
B 実績	ha	9	9	9	9	9	
B 達成率	%	100	100	100	100	100	
評価視点		評価結果				理由、課題・問題点	
③ 施策の達成状況	A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)				B	・農業者、農村地域の住民による景観形成活動などにより農村地域の保全が図られている。 ・防風林の老朽化が原因で隣接する農地に倒木するケースが増加傾向にある。	
	B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)						
	C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)						
	D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)						

3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】 事務事業の種類	【必要性】 事務事業の必要性	【妥当性】 町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施管)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

①事務事業評価結果											施策への 貢献度 <高い> <普通> <低い>		
事業 番号	事務事業名	種 類	所 管 課 名	成 果 指 標	評価年度(H28)		事務事業の内容	必 要 性	妥 当 性	事務事業 評価結果 (方向性)		事業費(千円)	
					目 標	単 位						H28実績	H29予算
1	多面的機能支払事業	(1)	産 業 振 興 課	地 域 活 動 組 織	7	組 織	農業・農村に有する多面的機能の維持・発揮のための地域活動や地域資源(農地・水路・農道など)の質的向上を図る活動に対し、国、道、町が一体的に支援している。 ※国50%、道25%、町25%	Ⅱ	Ⅰ	1 現状のまま継続	198,113	高い	
					3	組 織					198,224		
2	環境保全型農業直接支援対策事業	(1)	産 業 振 興 課	取 組 農 業 者 数 (生 産 法 人 含 む)	14	戸	化学肥料・化学合成農薬の5割低減の取組とセットで緑肥の作付や堆肥の施用などを行う営農活動に対して補助金を交付する。	Ⅱ	Ⅰ	1 現状のまま継続	9,127	普通	
					10	戸					10,252		
3													

年度別施策全体の事業費合計(千円)	
H28事業費	207,240
H29予 算	208,476

②H29に実施した新規事務事業					
	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H29予算(千円)
1					
2					
3					

評価視点	評価結果	理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	農業者と地域住民が共同で農村地域の保全活動を実施することで農村景観が保たれている。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)	
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)	
	事業構成の 妥当性	A

4. 今後の方向性 ※外部評価 (行政評価委員会)												
①総合評価 (今後の展開、 事業の見直し等) 委員会評価	特に課題とすべき指摘事項はない。ただし、防風保安林等には貴重な植物なども植生しているので引き続き保全に努力していただきたい。				事業の 方向性 優先度 A~D (ランク)	事業番号				平成29年度以降 の予算の方向性		
						A						
						B						拡大
						C	1	2				〇 維持
						D						縮小